

令和4年10月20日

三田市長

森 哲男 様

三田市議会市民の会

檜田 充

美藤 和広

肥後 淳三

## 令和5年度（2023年度）三田市予算編成に関する申し入れ書

森哲男市長におかれましては、依然として続く新型コロナウイルス感染症の拡大により、市民の生活も変化を余儀なくされる中で、あらゆる施策を総動員し、全ての市民の福祉向上と安全安心のまちづくりに向け、ご尽力されていますことに心より敬意を表します。

さて、急激な人口減少・少子高齢化社会をむかえる中、本市が抱える課題も山積しています。国の医療制度改革に対応し、市民の命と健康を守る「市民病院」の再編、子どもの減少による「学校・幼稚園」の適正規模・適正配置、ニュータウン開発による行政需要の増加に伴い整備された公共施設の老朽化による見直し、環境施策の砦であるクリーンセンターの建替え等々、さらには今回の新型コロナウイルス感染症の拡大による市民生活の変化や窮状への対応は三田市の未来に大きな影響を及ぼす可能性もあります。ひとつひとつの課題に正面から向き合い、市民にしっかりと説明し、理解を得て解決していかなければなりません。

私ども、「市民の会」では、「市民だれもが安全で安心な社会の実現」を心から願い、将来の社会基盤の根幹となる少子高齢化対策をはじめ、介護基盤の充実、障害者・高齢者の生きがい対策など健康福祉社会の実現、産業の活性化、雇用対策の充実、地域・学校の安全確保、新たな特色ある三田の教育の推進、三田の魅力を生かした情報発信等市政全般に渡る申し入れ項目を取りまとめました。

森市長には二期目最終年度となる令和5年度（2023年度）当初の予算編成にあたり強力なリーダーシップを発揮され、「健全で安定した市政の継続」という市民の願いに応える対応を強く要望いたします。

# 市民の会予算要望書

## 新型コロナウイルス感染症対策

番号	内容	提案年度	種別
1	国・県と連携した情報の把握と市内状況の収集と適切な時期・内容による市民への周知	R2	継続
2	正しい情報の発信による医療者・感染者・関係者への風評被害の防止	R2	継続
3	検査体制の確立と整備	R2	継続
4	市民病院をはじめとする医療体制の確立と維持	R2	継続
5	感染者の受け入れ態勢の整備・維持	R2	継続
6	ワクチン接種率が低い子どもたちの命を守る医療体制の充実を図り、長年の外出抑制に伴う高齢者のフレイル予防や障害者の感染要望や対策などを図ること	R2/R4	強化
7	感染後の後遺症（うつ、味覚障害）に悩む患者へのケア体制の充実	R2	継続
8	治療薬の充実と普及	R3	継続
9	勤労者のテレワーク等労働環境の課題分析を図り、精神的支援を実施する	R2	継続
10	勤労者のコロナの影響による解雇等に対する緊急雇用対策を図ること	R2	継続
11	感染の再拡大に十分注意しながら、ウィズ／ポストコロナへの対応を図ること	R4	新規

## 総合政策（政策調整・未来戦略）、経営管理（行政管理・財務・歳入推進）

番号	内容	提案年度	種別
1	森市長が掲げる「人口減少にも負けないまち三田」の実現とともに、人口の維持増加を目指すこと。	H27 /R4	強化
2	市民に寄り添い、職員とともに事業推進する市組織の構築・強化を図ること。	H27 /R4	強化
3	行財政構造改革の推進により健全財政を維持すること	H27 /R4	強化
4	各事業を維持可能な人材を確保するとともに、適正な人件費の維持に努めること。	H27 /R4	強化
5	働きやすく暮らしやすい魅力あるまちとして、多くの人や企業を呼び込むこと。		
6	第5次総合計画に基づき、人口減少要因を徹底的に分析し、人口計画を見直し対応策を実践すること。	R2/R4	強化
7	市民との双方向情報発信による広報広聴のあり方の研修と刷新。スマホ利用世代と紙世代の2重化を考慮しながら、市民発信を図ること。	R2	継続
8	産官学地域連携とUIターン促進事業を活発に事業展開し、若者の転入を図ること。	R2	継続
9	学生のまちづくり活動を活性化し、サンタ×三田プロジェクトなど、学生主体となったシニアプロモーションを図ること。	H30 /R2	継続
10	スマートシティ構想について、 ①デジタル化推進と人材確保を強化し、三田らしさを織り込んだスマートシティを市の魅力とすること。 ②デジタル田園未来都市を実現し、デジタル技術を活かしたアイデアを行政サービスに反映できるように、職員の育成、外部人材の登用を図ること ③新技術を持つ企業や大学との連携を図ること。 ④若者世代の想像力やアイデアの活用などを進めること。	R2/R4	強化

11	デジタル化推進として、 ①情報資産のセキュリティ対策を一層強化すること ②市全域のネットワーク環境を整備し、庁内ネットワークとの連携強化を図ること。 ③市民誰もが使える自治体DXの推進を図ること。	R2/R4	強化
12	市民病院の改革において、将来の医療需要を鑑み、地域の中核病院かつ高度な専門医療と救急医療を中心とした急性期病院として、住民に安心・安全な医療提供体制を確保すること。	H30	継続
13	北神・三田急性期医療連携を密にし、小児救急をはじめ安心を確保すること。	R2	継続
14	持続可能な安心医療を提供できる医療施設の構築に向け、再編統合を速やかに図るとともに、市民への説明と安心できる未来図を示すこと。	R2	継続
15	再編統合後の現三田市民病院の跡地、施設利用については、現行の医療制度で不足する回復期、慢性期の充実を図るとともに、高齢者、障害者福祉の充実に向けた施設への転換を図ること。	R3/R4	強化
16	大規模災害に防災体制の確立と、市民の安心安全確保に向けた情報管制と情報伝達の諸施策に積極的に取り組むこと。また、高齢者のみ住宅や障害者住宅に対する家具転倒防止器具の設置について最優先で取り組むこと。	H23/R4	強化
17	近年の暴風や豪雨を想定をした、建築物や排水路等インフラ整備にかかる規格の見直しを図ること	R1	継続
18	武庫川の決壊や緊急放流の影響を考慮したガイドライン構築を図ること。 また、内水氾濫に対してのガイドラインの構築を急ぐこと。	R1	強化
19	三田市内のフラワータウンを始めとする住宅街内の一般道路については、全域をゾーン30に指定し自動車等の交通事故から市民の命を守ること。	R4	新規
20	公共施設マネジメントにおいて、市民に提供する施設サービスの水準を維持し、適正な配置を進めると共に地域の願いを反映するよう努められたい。 コストと年度間平準化を考慮しながら、個別施設計画の策定と進捗管理を図ること。	H27 /R1	継続
21	各種団体への補助金・負担金の使途・効果を把握し、見直しを進めること。併せて、加入団体分担金・負担金も必要性等を見極め、見直しを実現すること。	H23	継続
22	防犯カメラの設置・運用を検証し、さらなる地域防犯活動を積極的に支援すること。	H30	継続
23	働き方改革の推進を図ること。 ①情報共有の推進と、議会提出を含め、庁内書式・様式の統一 ②AIを含むICT化促進により、作業効率と業務効率化の仕組みの構築と教育 ③窓口キャッシュレスを促進し、電子キャッシュフローの確立 ④電子決裁に向けた業務フローの確立 ⑤時差出勤やフレックスタイムの一層の有効活用と時間外勤務の縮減 ⑥会議の効率化・適正化 ⑦GISを用いた地図提供などオープンデータへの取組 ⑧市民センター間のWeb会議 ⑨窓口業務の情報共有と見える化の促進	H27 /R1 /R2 /R3 /R4	強化
24	情報公開の徹底を図ること。	H23	継続
25	情報化時代を鑑み、情報化計画の策定と5Gに向けた高速無線通信の早期実現を図ること。また、庁内等の市民向けWiFi設備の充実を図ること。	H30 /R1/R3	強化
26	研修制度の充実による職員のスキルアップとモラルの向上及びメンタル等の健康管理を図ること。	H23	継続
27	国・県情報を先取りし、徹底した財政縮減と税収納の強化を図ること。	R2	継続

## 地域共創（市民協働・産業戦略）

番号	内容	提案年度	種別
1	市民センターの運用について、効率化を図ると共に、地域活動を支援するよう努められたい。 ①駐車場管理の規格化 ②機能や貸館ルールの見直し ③設備の補修や更新の支援 ④地域活動拠点として機能増強 ⑤市庁舎との連携強化とネットワーク強化 ⑥市民活動の発表機能の整備 ⑦各職員の情報技術を含む養成	H27 /R4	強化
2	地域担当及びサポート職員は、自治会をはじめまちづくり協議会と情報を共有し、地域課題の集約に努める一方で、その課題解決に向け市からの財源確保に向けたキーマンに位置付けること。	H24 /R1	継続
3	自治会やまちづくり協議会について、 ①自治会やまちづくり協議会の位置づけを明確化すること。 ②自治会の加入率低下を防ぐため、加入促進に向けたSNS導入による自治会改革などの支援を積極的に進めること。 ③自治会への回覧物のあり方などを見直すこと。 ④まちづくり協議会のふるさと交付金は、基本定額に加えて、人口規模や事業内容に応じた予算を追加できる制度に見直すこと。 ⑤包括交付金は、それぞれの地域課題に応じ、時間をかけて慎重に検討すること。 ⑥自主防災会への加入は、自治会の加入率低下の現状に鑑み、(仮)コミュニティ条例の策定時に強制加入についても検討すること。	R2/R3	強化
4	市民を中心とした国際交流の推進に努めること。また、姉妹都市連携の見直しと、市内在住外国人への日本語サロンなど連携強化を図ること。	R2	継続
5	産学官連携協定に基づくインキュベーション施設等の建設に伴い、「リモート市役所」や住民票等交付機器の設置を進め、住民の利便性の向上を図ること。	R3	強化
6	いきがい応援プラザの一層の周知を図るとともに、退職後の「就労」「大人の居場所づくり」を積極的に推進すること。	H23	継続
7	特殊詐欺や違法販売など多様化する状況に市として情報支援強化を図ること。	R2	継続
8	図書館の市民サービス向上を図るとともに、自主事業を促進し、図書館を活かした運営を目指すこと。 ①三田駅前の図書館拠点の整備 ②図書館ネットワークの整備 ③移動図書館の見直し ④既存図書館の機能見直しと改修支援 ⑤図書館支援団体との連携強化と活動支援 ⑥図書やメディアの充実 ⑦駐車場周辺の整備	H29/ R4	強化
9	国体開催基準要項細則第2項に規定する施設基準及び各競技規則に基づいた大会誘致可能な体育館及び陸上競技場の整備を図るとともにプロや日本代表級の使用に対応できる施設として改修し、本物に触れる、大会を誘致できる機会をつくること	H25/ R4	強化
10	文化振興において、文化ビジョンに基づき市民とともに持続的な活動支援を図ること。 ①県のコレクションナリウムや市の歴史収蔵センターなど、収蔵物の連携と維持活用を促進すること。 ②収蔵物の常設展示場を検討するとともに、公共施設への効果的な展示を図ること。 ③中学校部活動地域移行に伴い、市民主体の文化育成を支援すること。	R4	新規
11	スポーツ振興において、 ①中学校部活動地域移行を見据え、地域クラブの運用構築に向け準備を進めること。 ②障害者スポーツは地域で支える環境で、運営や指導者の人材育成を図ること。 ③障害者スポーツ活動の基盤として協会を設立し、障害者への理解と共生社会の実	H29 /R2	継続
12	マイナンバーカードの一層の普及と市独自サービスの一層の充実を図ること。	H29 /R2	継続

13	観光政策については、三田市観光ビジョンに基づき、三田市の活性化に努めること。 ①新たな観光資源を掘り起こすこと ②三田名物・土産物開発支援による商業の活性化と物産販売を行うこと。 ③新たな観光地の掘り起こしには、地元との合意形成が必要となることから駐車場の整備課題解決を含めて観光振興を図ること。 ④三田の歴史、自然、近接農業、ニュータウンなど他都市にはない三田の魅力を生かしたまちづくりを図ること。	H28	強化
14	三田牛等全国に誇る特産品の発掘とブランド化により一層の振興、流通と市内で食することが出来る環境づくりを図ること。		継続
15	産業創造戦略に基づきインキュベーション施設を活用するなど三田の若者がビジネス展開できる環境整備と地域産業の振興・活性化を図ること	H26	継続
16	第2テクノパークのほぼ完売を受ける中、第3テクノパークを含めて、市内における雇用創出と若者の就労定着を目指すこと。併せて、市内中小企業対策も充実すること。	H30	継続
17	障害者雇用の実態を把握すると共に、三田市が率先して障害者の能力・実態に合った雇用の確保及び企業への法的雇用率達成を目指すよう指導・監督し、障害者が働きやすい環境をつくること。また、あわせて介護事業所の雇用の確保と介護士等の処遇改善のために、市の独自の施策を実施すること。	H30	継続
18	産業・労働政策推進の観点から、労働団体との定期的な懇談の場を設定すること。	H26	継続
19	若い勤労者が三田に住みやすい環境を支援すること。	H28	継続
20	三田・新三田駅前の活性化において、学生や若者、ファミリー等が余暇を楽しみ、幅広く交流の場として、アミューズメント施設等の設置など、人が集う活気あるまちづくりに向け検討すること。	H26	継続
21	地場産レストランの実現を目指すとともに、農業振興を図り、安心安全・良質な農産物を生産し、地産地消を推進すること。		継続
22	年々増加する有害鳥獣の根本的防止策を検討し、若手猟師の育成強化を含め対処すること。また、あわせて捕獲した鹿やイノシシについて、自宅等での解体処理施設の設置補助制度等を創設し、ジビエ肉の流通等への活路を見出すこと。	R4	強化
23	既存商店街のあり方を見直し、将来に向けた取り組みを図ること。	H28	継続

## 子ども・未来(子ども未来・子育て応援)、共生社会(福祉共生・健康共生)

番号	内容	提案年度	種別
1	市民だれもが安心して子育てができるまちづくりを進めること。	H26	継続
2	子ども食堂の整備を市内のすべての小学校区内に設置できるよう市民グループの組織づくりや運営支援を強化すること。	R4	新規
3	放課後児童クラブの安全と安定的な運営を図ると共に夏休み期間中の放課後児童クラブを補完する意味で、子どもの居場所づくりに対する地域グループ立ち上げの支援を行う他、子どもの居場所を立ち上げたグループに対して柔軟な財政支援を行うこと。	R1/R4	強化
4	保育施設について、通園・通所バスも含めて施設設備の安全をしっかりと確保すること。	R1/R4	強化
5	青少年の健やかな成長に悪影響を及ぼす有害環境(ネットを含む)の点検及び青少年育成活動を充実すること。	R1	継続
6	市民の命と健康を守るため、地域医療連携の強化を図ること。	H29	継続
7	市民だれもが安心して暮らせるまちづくりに対応するため次の通り対応願いたい。 ①コロナ禍における高齢者のフレイル予防体制の強化と元気な高齢者づくりの支援を行い切れ目のないサポートを実施すること。 ②軽度認知症の早期発見体制と治療環境の整備及び充実を図ること。 ③介護保険制度を使い始める相談窓口の周知を徹底し生活の不安を払拭すること。	H26/ R4	強化
8	社会福祉協議会の情報公開と人材育成を進め、全ての市民の理解と自立に向けた取り組みを進めること。		継続
9	社会福祉協議会の会費制度のあり方については、制度疲労を起こしている。市民に公平感のある制度への転換を図ること。	R3	継続
10	人権尊重のまちづくりについて、「三田市人と人との共生条例」に基づき、人権研修・啓発をはかること。	R3/R4	強化
11	人権教育推進事業について市民の理解が得られるよう努められたい。	H29	継続
12	視覚・聴覚障害等を持つ人が安心して暮らせるよう外出支援等、障害者福祉の充実に努めること。	H27/R4	継続
13	障害者支援において保護者の高齢化対策と亡き後の生活支援体制の確立を図ること。	R2	継続
14	生活介護施設や重度障害が療育出来る放課後デイサービスなどニーズの把握を的確に行ない、障害者(児)の希望に添えるようにすること。	R3	継続
15	福祉に関する相談窓口担当者のスキルアップを図ることともに、得た情報に対応できる環境の整備と充実を図ること。	H30	継続
16	高齢者の外出支援対策について、 ①幅広く先を見た対策を研究、実施すること。 ②運転免許返納が難しい地域に対する外出支援策の充実を図ること。	H23 /R1/R4	強化
17	小児救急医療体制の充実に努めること。また、病時病後児保育体制の強化に努め、子供の命を守ると共に保護者の安心を確保すること。	H26	継続
18	病児・病後児保育について、小児科医等の協力を得て早急に体制を整えること	R4	新規
19	三田市子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査を踏まえ、貧困実態の分析に基づき、誰ひとりとして取り残さない対策を講じること	H30 /R1/R4	強化
20	児童生徒支援加配教員の増員と研修の充実を図ること。	H23	継続

## まちな再生(都市政策・地域整備・環境共生)

番号	内容	提案年度	種別
1	三田駅前Cブロックの再開発について、事業完遂に向け、積極的な支援を行うこと。	H26	継続
2	JR新三田駅周辺においては、マスタープラン見直しによる都市核化を活かし、利用者の利便性向上に向けた見直しを図ること。	R2/R4	強化
3	JR新三田以北の沿線利用者の利便性向上に向けて、通勤・通学時間帯の増便と共に、新駅設置を含めた駅ターミナルの拡大・充実を図ること。	H24/R1	継続
4	JR駅周辺の狭隘道路については、緊急車両の進入に対応できるよう拡幅を図ること。	H27	継続
5	相野駅周辺の整備事業を早期に実現すること。併せて広野駅、三田駅北側周辺地区についても早期の対応を図ること。	H24	継続
6	相野駅周辺の整備については、長年の住民の悲願であり、早期の完成に向け、県・国への要望を強化するとともに、地元対策についても十分な対応をすること。	H26	継続
7	神鉄各駅周辺の社会変化に伴うロータリーをはじめ抜本の見直しを図ること。	R2	継続
8	神鉄公園都市線の延伸等の調査研究を行なうこと。	R2	継続
9	三田駅～カルチャータウン、テクノパークへのLRT化について高校や大学の通学、会社への通勤向上等地域公共交通をまちづくりの中心に据えて検討すること。	R3	継続
10	地域公共交通活性化協議会を活用し、ゼロカーボンシティ宣言に鑑み、地域特性に応じた地域公共交通網(新交通システム)の実現を促進すること。	H28/R3	継続
11	ウディタウンの商業集積エリアの特性を活かした新交通システムの事業化を国の交付金を活用して実行すること。	R3	継続
12	鉄道交通の整備と見直しによる安価・安心・安定な交通を図ること。 新三田市民病院を含め、医療機関への新交通システムの導入など交通弱者に対応できる交通環境を整え、高齢者ドライバーの免許返納を支援すること。	R1/R4	強化
13	バスの拠点を整備し、地域コミュニティ交通のモデル地域を設定し、早期整備を図ること。(特に、コミュニティバスとスクールバスの時間差による一体的運用等)	R1	継続
14	バス停留所の位置変更に伴うフラワータウン駅ビルへの利用者のアクセスの課題及びセンチュリープラザ前での渋滞緩和対策について引き続き検討するとともに、新路線開設に伴い、乗車数が多いバス停留所については、バスシェルターの設置を検討	R4	新規
15	三田駅から市役所、総合文化センター等シビックゾーンへは、自動運転バス等でアクセス強化を行い、車で移動させる政策からの転換を図ること。	R3	継続
16	高齢者の免許返納支援について、 ①自動運転も視野に入れ、幅広く先を見た対策を研究、実施すること。 ②返納しなくても生活を営むためには返納できない地域に対する外出支援策の充実を図ること。 ③高齢者の運転免許更新にかかる事前講習が混雑している。近隣市町の施設紹介等、対策を実施すること。	H23/R1/R4	強化
17	主要道路については拡幅、歩道整備を含め、交通安全対策の充実を図ること。(自転車通学への配慮、ロードミラー、横断歩道、及び信号機の設置)		継続
18	街路樹等植栽について、安全対策を第一に、樹種や間隔の見直しなど、植栽管理の適性を図ること。	H25/R2/R4	強化
19	土地利用について、市街化調整区域の抜本的な見直しと区域内の弾力的運用を図り活性化を図るなど、都市計画の見直しも含め最大限の努力をされたい。	H26/R4	強化
20	空き地空き家対策をまちづくりの課題として、対応策の積極的な推進を図ること。また、雑草など近隣地への迷惑を配慮し、対策を講じること。	H24/R2	継続
21	市民の健康づくりの施設や競技用施設の整備・維持を効率的に行うこと。また、体育館の冷暖房設備設置を図るとともに、熱中症などの安全対策を徹底すること。	H24	継続
22	街区公園の管理においては、まちづくり協議会等地域への委託を図ること。また、効率的な刈草のあり方を地域に委ねること。	H28/R1/R4	強化
23	道路や公園の危険箇所情報提供アプリの存在を市民に周知し、公園や道路の適正かつ安心安全の管理に努めること。	R3/R4	強化
24	道路施設や公園遊具施設については、近年老朽化が進んでいることから点検のあり方を検討し市民が安心・安全に利用できるようにすること。	R3	継続
25	市内の公共施設、歩道・自転車道等雑草除草についてアドプト制度による市民との協働の取り組みを検討すること。	R3	継続
26	平谷川緑地など身近な都市公園を整備し、憩いのあるニュータウンとすること。	R2	継続

27	定期的にスポーツ施設の季節別利用時間を市民ニーズに合わせて見直すこと。	R3/ R4	強化
28	子どもたちが遊べる(スケートボード、ボール遊び、モトクロス等)場所について、公共資産(施設・未利用地)の活用を図ること。	R3/R4	強化
29	ゼロカーボンシティ推進については、 ①市民と一緒に推進していく必要性からも説明を十分に行う ②循環型社会実現のために太陽光、木質チップやたい肥等バイオ発電による地域への電力供給にむけた取り組みを研究する。 ③三田の里山、森などの保全や植林の定期的な伐採や材木の利活用について研究検討を進めること。 ④新設されるクリーンセンターの建設に伴い、研究部署を設置し新たな新技術の導入等を研究すること。	H24/R4	強化
30	太陽光発電設備の設置規制に基づき市民のと安全を確保すること。	R1	継続
31	不法投棄ゼロに向けた対策の構築と実現を図ること。	R1	継続
32	聖苑・霊苑については、合葬墓の検証を含め、将来を見据え、効率的な運営を図ること。	R1	継続
33	野外焼却については、刈草回収の試行を検証し、意見を尊重して市民誰もが理解できる施策を講じること。	H30/R1	継続
34	森林環境譲与税を活用し森に棲む動物との共存共栄対策や豪雨対策に ①里山の整備を適正に行うこと ②落葉広葉樹の森づくりにより森ダムを推進すること	R1/R4	強化
35	(仮称)資源ごみの持ち去り禁止条例を制定すること。	R4	新規

## 上下水道

番号	内容	提案年度	種別
1	安全・清浄にして豊富・低廉な浄水の供給に努めること。		継続
2	効率的経営により料金の長期安定化を図ること。		継続
3	改定を実施した料金体系の検証を行い、持続可能な運営に努めること。	R4	強化
5	公共下水道事業において、特定環境保全公共下水道事業、農業集落排水事業、コミュニティプラント事業の運用に関し、将来を見据え、合併浄化槽等への切り替えを含めた、検討を図ること。	R1	継続
6	老朽化した水管(橋)などの点検などを実効性のあるマニュアルに基づいて確実にを行い、市民生活に支障がでないように努めること。	R3	継続
7	災害に強い配水管及び下水管、雨水管の敷設を進めること。	R3	継続

## 会計・行政委員会

番号	内容	提案年度	種別
1	現金レス収納の推進	R2	継続
2	各委員会の活動の見える化	R2	継続
3	選挙管理委員会の作業の見直しによる簡素化や申請書類の電子化を推進すること	R2/R3	継続
4	スムーズな開票作業とタイムリーな情報提供	R2	継続
5	農業委員へのタブレットPC配布について、十分な活用ができていないか検証を進め、効果的な使用ができるようにすること。	R4	新規

## 教育委員会

番号	内容	提案年度	種別
1	通学においては、地域の方々の見守り等安全対策に万全を期すこと。通学路についても、草刈りやグリーンベルトの塗り替え等計画を立てて行なうとともに、常に交通状況の変化を見落とすことのないように注意すること。	H27/R4	強化
2	学校の施設設備の整備を計画的かつ迅速に進めること。また、山林に接する学校については、グラウンドも含めて、鹿や猪等が入り込まないようフェンスを設置すること。	R4	新規
3	学校行事、出張、各種研究の精選、人的配置等により、教職員の多忙化解消・心のケアに努め、労働安全衛生法に基づく適切な勤務環境への改善に努めること。		継続
4	「ひまわり特別支援学校」の充実を図るとともに、地域校についても、引き続きバリアフリー化等施設設備の充実、人的配置、通学支援等について考慮すること。	H26	継続
5	特別支援学級については、個々の子供に対応した指導ができるよう、定数改善を国に対して働きかけること。	R3	継続
6	個々の子どもに応じたきめ細かい教育の実現に向け、さらなる少人数学級を推進すること。また、学校現場の実情に応じ、教職員の増員を図ること。	H26	継続
7	カウンセリングを必要とする児童・生徒が増加していることから、スクールカウンセラーを全校配置し、心のケアを充実すること。	H26	継続
8	通学に係る交通手段の確保を図られたい。	R1	継続
9	学校給食においては、安心・安全を図ること。また、学校給食の無償化に向け、検討を進めること。	H25/H28	継続
10	現行の給食費では、十分な栄養バランスが保てないことから、給食費見直しなどで、子供たちに充実した美味しい給食を提供すること。	R3	継続
11	保護者負担の軽減、教育環境の整備を図ること。		継続
12	子どもの将来に影響を与えるような「ほんもの」に触れ、夢と感動を体験できる機会を継続すること。	H25	継続
13	「虐待」「いじめ」「不登校」などの防止・早期発見と問題解決に向け、学校だけでなく保護者・地域・警察などと連携を強化すること。また、配布された「タブレット」を活用し、児童・生徒が気軽に相談でき、「いじめ」等の芽を摘み取る対応を研究すること。	H24/R4	強化
14	GIGAスクールの導入にあたり、タブレットパソコンの使用法の確立とネット環境などによる社会的格差を出さないこと。	R2/R3	継続
15	これからのICT社会に向けた教育体制の確立と人材の育成	R2	継続
16	幼小中学校の再編については、三田市全体の課題として市民と共有し、スピード感を持って対応すること。とりわけ、長坂中学校・藍中学校の再編策と地域再生を進めるフラワータウンにおける小中学校の再編については、待ったなしで取り組むこと。	R3/R4	強化
17	SDGsを環境基本教育の柱に据え、持続ある地域社会・経済活動などについて環境の大切さをしっかり教えること。	R3	継続
18	中学校部活動地域移行にあたり、社会教育との連携を図り、円滑な移行を図ること。	R4	新規

## 消防本部

番号	内容	提案年度	種別
1	消防職員の計画的な採用に努め、実質定数を満たすよう努力すること。	R1	継続
2	自主防災組織の結成やその育成に努力してほしい。		継続
3	消防団の災害時対応については、何よりも団員の安全に十分配慮すること。		継続
4	中高層建築物火災時に出動可能な要員の確保と急増する救急業務、並びに大規模災害時に対応できる出動体制の増強を図られたい。		継続
5	女性の消防士・救急救命士の配置を促進すること。	H28 /R1	継続
6	神戸市との消防指令業務の共同運用については、市民の命と財産を守りつつ、より広域的で効率的な運用を図ること。	R4	新規

## 市民病院

番号	内容	提案年度	種別
1	来る急激な高齢化を鑑み、健康と命を守る高度で総合的な医療機関として、機能の充実を図ること。	H27	継続
2	医師・看護師の確保を継続的に行い、病院機能の維持向上に努めるとともに、医療スタッフと患者との信頼関係向上に努めること。		継続
3	医療事故の撲滅と医療技術の向上に努めること。		継続
4	時間外勤務の縮減等、医師や看護師などの働き方改革に対応できるよう、就労環境の整備充実と人員の確保に努めること。	R4	強化
5	地域の医療機関と連携し、そのリーダーとして、地域医療の充実を図ること。	H24	継続
6	診療費の未収の縮減に努めること。	H23	継続